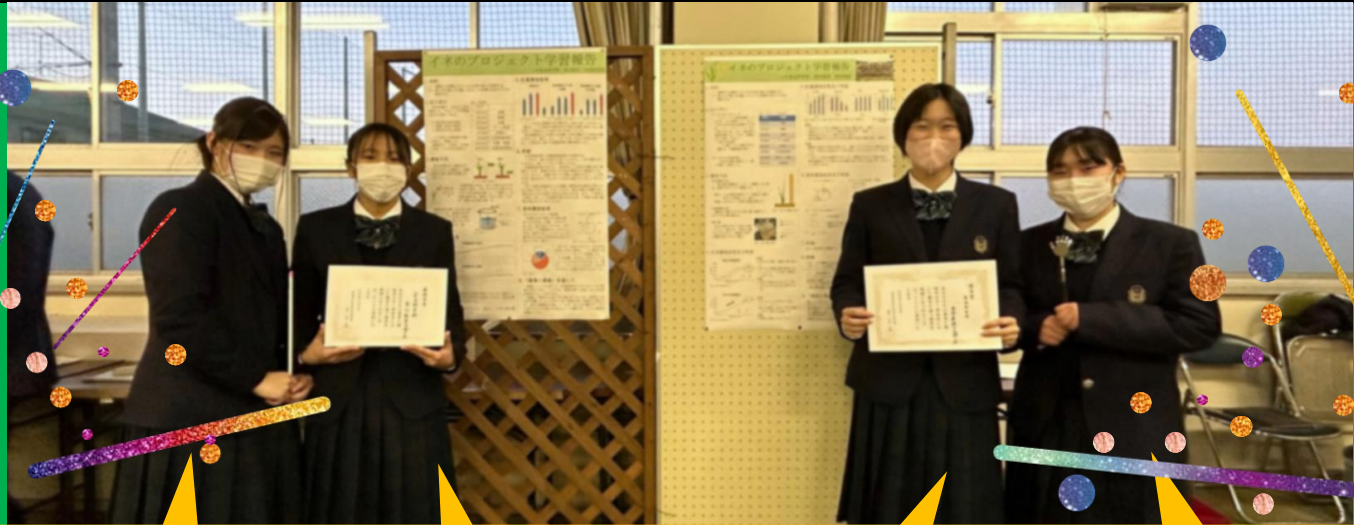


2月9日で校内で行われた農業と環境ポスター発表会に食品科学科2組が  
見事 Aグループ**最優秀賞**とBグループ**優秀賞**を収めました!!



「時間のなかで頑張ったポスターで最優秀賞が取れて嬉しかったです」  
 「努力の結果が賞としてあらわれてよかったです」  
 「頑張って準備したことが優秀賞という結果にあらわれて嬉しかったです」  
 「優秀賞を取ることができて、これからの自信に繋がりました」



発表の様子①



発表の様子②



発表の様子③



表彰の様子

校内全10組が出場し、各々の研究テーマをポスターにまとめ発表しました  
各学科の色があり、どの発表も良い内容でした

時間に限りがある中、遅くまでポスターの準備に取り組み、自主的に努力を積み重ねたみなさん、本当にお疲れ様でした。賞は“がんばった証”です。おめでとうございます。

「農業と環境」担当職員より

発表に使われたポスター

イネのプロジェクト学習報告

1年食品科学科 貝川弥生 木谷沙矢佳

**1. 目的**  
 (1) 播種から収穫までのイネの生育の様子を理解する。  
 (2) 植え方の違いが収穫にどのような影響を及ぼすかを調査する。

**2. はじめに**  
 供試品種は、みににしきを使用した。みににしきの特徴は以下の通りである。  
 ▷岐阜県が奨励商品  
 ▷尾関二郎氏が開発  
 ▷昭和58年に登録  
 1Fは表1の栽培歴の通りに栽培し、調査した。  
 調査区は、1本区、3本区7本区、10本区を設定した。

日付	日付
5月13日	浸種
5月19日	播種
5月23日	出庫
5月26日	プール育苗
6月16日	田植え
6月30日	生育調査開始
10月13日	収穫・脱穀
10月27日	収量調査開始

**3. 調査方法**  
 草丈は根元から葉先まで1mのさしで測定し、茎数は根元の硬い部分を数える(図1)。

**4. 生育調査結果**  
 【草丈】  
 どの試験区も最終調査日には同じ長さであった(図4)。8月から9月にかけて草丈は大きく成長しており、9月以降はほとんど長さは変わらなかった。  
 【茎数】  
 どの試験区も徐々に増えていった(図5)。9月以降の調査ではほとんど増えなかった。

**5. 収量調査結果**  
 3・7本区の登熟歩合の割合は、0.01の差しかなかった(図6)。10本区の登熟歩合の割合は最も低かった。最も高い7本区は10本区の約3倍ほどだった。単位面積あたりの精もみ収量と玄米収量は10本区が最も多かった(図7、8)。次いで多いのは3本区であった。1本区は、全ての調査結果で最低値だった。

**6. 考察**  
 生育調査結果と収量調査結果から考察する。1本区は、値が全体的に低いことから、1本で植えることはあまり適していないと考えられる。収量調査結果を見ると、全体的に10本区が最も良い結果だったが、登熟歩合は10本区の割合が1番低かった。このことから、収量が多くても精もみ数が少なく、くず米が多く含まれているため10本区は適していないと考えられる。次いで単位面積あたりの収量と登熟歩合の割合が高いのは3本区であった。このことから、精もみ数と収量が多く見込めるのは3本区であると考えられる。また、7本区も3本区と同じような結果が見られたため、7本区も良い結果が見込めると考えられる。

**7. 食味調査結果**  
 【1Fのアンケート結果】  
 6項目の中で最も平均値の高かったものは、外観・大きさが多かった。また低かったのは、甘みだった。この結果から、みににしきは、粒が大きくしっかりと歯ごたえがあるが甘みは少ないと考えられる(図8)。

**8. 「農業と環境」を通して**  
 播種からイネを育てて、生育調査をするときにイネの成長を間近で見ることができ、植物を育てる楽しさと大切さを実感することができた。田植えや稲刈りは全て手作業で行ったため、感覚をつかむのが難しかったり初めて使う道具が多かったり大変だった。現代は機械化が進んでいる中、全て手作業で行っていた昔の方々の大変さを身をもって体験でき、とても貴重な経験ができた。